

P1-1 XLIF 術後の経時的かつ定量的な下肢筋力評価

○吉田 祐樹(よしだ ゆうき)
公立南丹病院 リハビリテーション科

Key word : MMT, サイベックス, 腰椎固定術

【目的】 XLIF 術後の合併症として腸腰筋や筋間を走行する神経の損傷が報告されており、一時的な下肢筋力低下は20-30%の症例に生じるとされている。本研究の目的は XLIF 施行例における下肢筋力の推移を経時的、定量的筋力評価を用いて検討することである。

【方法】 XLIF を施行した35例(男性9例、女性26例、平均年齢72歳)を対象とした。固定椎間はL1/2:5椎間、L2/3:7椎間、L3/4:19椎間、L4/5:31椎間、L5/6:1椎間であった。測定時期は術前、術後1週、2週、3週、1ヵ月、2ヵ月、3ヵ月とし、徒手筋力検査(MMT)とともに、大腿四頭筋筋力はサイベックス(CYBEX[®])、腸腰筋筋力はハンドヘルドダイナモメーター(HHD)を用いて定量的に測定した。CYBEXでの評価は、5回の測定で最大筋力、HHDでは2回測定を行いその平均を用いた。MMT3以下、術前比80%未満の筋力を筋力低下ありと判定し、術後下肢筋力の推移を検討した。

【説明と同意】 本研究発表を行うにあたり、ご本人に口頭にて確認をし、本研究以外では使用をしないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

【結果】 腸腰筋筋力は術後1週でMMTでは8.6%、HHDでは36.3%の症例において筋力低下を認めたが、経時的に増加する傾向にあり、術後3ヵ月でHHD計測値は、術前比118%と術前より増加した。大腿四頭筋筋力は同様に術後1週でMMT25.7%、CYBEXで50%の症例において筋力低下を認めたが、術後3ヵ月でCYBEX測定値は術前比122%と術前より増加した。

【考察】 下肢筋力低下は自覚症状に乏しく、MMTでも評価

しにくい。CYBEXとHHDを用いることにより正確な筋力の定量的評価が可能であった。腸腰筋、大腿四頭筋筋力ともにXLIF術後に一過性の筋力低下を認めたが、経時的に改善することが明らかとなった。

【理学療法学研究としての意義】 XLIF術後に一過性の下肢筋力低下が確認されたが、経時的に改善した。下肢筋力の定量的評価は客観的な評価として有用である、筋力の増加を患者への確に提示できることでモチベーションの向上にもつながる。